

機関紙「日本作業療法士協会誌 第 131 号(2023 年 2 月 15 日発行)」に記載されている内容の補足資料を以下に記します。

生涯教育委員会

生涯教育制度改定 2023 について

1. 基礎研修制度の改定

3) 研修会の多様な受講方法

① オンデマンド方式研修会の受講履歴登録

オンデマンド方式研修会の受講履歴登録は、OT 協会主催研修会と医療福祉 eチャンネル(現職者共通研修テーマ 1~8、MTDLP 基礎編)のみを認めています。2023 年 4 月 1 日以降は、これらに加えて、オンデマンド方式研修会の受講履歴登録について、講義設定時間は 90 分以上であること、修了試験やレポートを課していること、下記受講証明書(見本)等が発行されることを条件として認められます。講師ポイントは、研修時間に応じて、1 回のみ取得可能です。

受講証明書(例)			
研修・受講テーマ:			
開催日程: 1 日目	年	月	日 ()
2 日目	年	月	日 ()
X 日目	年	月	日 ()
開催時間: 1 日目	:	~	:
2 日目	:	~	:
X 日目	:	~	:
履修確認方法: () レポート提出 ・ () 確認試験 ←いずれかの方法 質疑応答の手段を確保している が必要です。			
受講者氏名:			
上記の通り相違ないことを証明する。			
			2***年〇〇月〇〇日 学会長 日本〇〇〇〇研究会等代表 会長 〇〇 〇〇 公印

3. 専門作業療法士制度の改定

1) 分野別カリキュラムの改定(がん、摂食嚥下分野)

① がん分野

現在、専門作業療法士(がん)分野のみ専門基礎 0 を設定し、専門基礎研修が修了するまでに E-learning による聴講を求めている。他分野との整合性を図るために専門基礎 0 を削除する。

現 行	改 定	備 考
(1) カリキュラム内容: 専門作業療法士(がん)の専門基礎研修は、基礎 I・II・	(1) カリキュラム内容: 専門作業療法士(がん)の専門基礎研修は、基礎 I・II・	

Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・0 で構成されています。各研修の目的、項目、コマ数、実施形態を表 3 に示します。	Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・で構成されています。各研修の目的、項目、コマ数、実施形態を表 3 に示します。	基礎 0 の削除
(2) 受講方法:上記、研修カリキュラム(表 3)をもとに開催される基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴを受講します。加えて、基礎研修が修了するまでに E-learning により基礎研修 0 を修了してください。研修の開催時期、会場、講師等の詳細は、「教育部研修会受講生募集案内」や協会ホームページの専門作業療法士取得研修案内にて広報されます。研修会参加申し込みを確認し、必要な手続きを行ってください。	(2) 受講方法:上記、研修カリキュラム(表 3)をもとに開催される基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴを受講します。研修の開催時期、会場、講師等の詳細は、「教育部研修会受講生募集案内」や協会ホームページの専門作業療法士取得研修案内にて広報されます。研修会参加申し込みを確認し、必要な手続きを行ってください。 自己学習として以下の e-learning を利用されることをお勧めします。日本癌治療学会 Cancer e-learning : (http://www.cael.jp/)	基礎 0 に関する記述を削除

また、専門基礎Ⅳを以下の様に変更する。

【現 行】専門作業療法士（がん）専門基礎研修カリキュラム

専門基礎Ⅳ	身体症状をもつがん患者に対する作業療法の専門的知識・技術を理解し身につける	がん作業療法で求められるリスク管理	2	講義＋演習
		呼吸困難を有するがん患者とその家族の生活支援	1	講義
		全身倦怠感・体力消耗状態・廃用性症候群・がん悪液質を有するがん患者とその家族の生活支援	1	講義
		腫瘍浸潤・圧迫、がん治療の有害反応に対するがん患者とその家族の生活支援	1	講義
		リンパ浮腫・終末期浮腫を経験した患者とその家族の生活支援	1	講義
		がん性疼痛を有するがん患者とその家族の生活支援	1	講義

↓

【改 定】専門作業療法士（がん）専門基礎研修カリキュラム

専門基礎Ⅳ	身体症状をもつがん患者に対する作業療法の専門的知識・技術を理解し身につける	がん作業療法で求められるリスク管理	2	講義＋演習
		呼吸困難を有するがん患者とその家族の生活支援	1	講義
		全身倦怠感・体力消耗状態・廃用性症候群・がん悪液質を有するがん患者とその家族の生活支援	1	講義
		腫瘍浸潤・圧迫 、 CIPN 、手足症候群、外見の変化、嚥下困難、食欲不振・過多、倦怠感などのがん治療の後遺症・有害反応に対するがん患者とその家族の生活支援	1	講義
		リンパ浮腫・終末期浮腫を経験した患者とその家族の生活支援	1 2	講義

②摂食嚥下分野

分野特定以降の当該分野を取り巻く状況の変化に合わせ、現在の摂食嚥下リハビリテーションの状況に沿ったカリキュラムに微調整する必要がある。そして、e-learning やオンライン研修会を想定したカリキュラムも必要になっている。

摂食嚥下 専門作業療法士:専門基礎研修シラバス

現 行				変 更			
目的	研修項目	コマ数		目的	研修項目	コマ数	
専門基礎Ⅰ 正常な摂食嚥下の機構および機構の破綻による障害について専門・生理・解剖・運動学の観点より理解する。	食べるって何？ (食や食環境に関する文化や歴史、食べる障害が人に与えるメリットとデメリット)	1	7	専門基礎Ⅰ 正常な摂食嚥下の機構および機構の破綻による障害について専門・生理・解剖・運動学の観点より理解する。	食べるって何？ (食や食環境に関する文化や歴史、食べる障害が人に与える 影響)	1	7
	日本における摂食嚥下障害と作業療法の変遷 (学会報告や診療報酬などに見る)	1			日本における摂食嚥下障害と作業療法の変遷 (学会報告や診療報酬などに見る)	1	
	摂食嚥下機構とその障害(生理・解剖・運動学の基礎を踏まえた臨床症状について)	2			摂食嚥下機構とその障害(生理・解剖・運動学の基礎を踏まえた臨床症状について)	2	
	摂食嚥下機構の発達とその障害(生理・解剖・運動学の基礎を踏まえた臨床症状について)	2			摂食嚥下機構の発達とその障害(生理・解剖・運動学の基礎を踏まえた臨床症状について)	2	
	食事の自立に関する諸因子の総論(成人・老人、小児)	1			作業として考える食事支援	1	
専門基礎Ⅱ 摂食嚥下障害に対するチーム医療としての各職種役割を理解する。	摂食嚥下障害の診断と検査(成人・老人、小児) チーム医療、誤嚥性肺炎、リスク管理、代替え法、吸引に関する知識等	3	7	専門基礎Ⅱ 摂食嚥下障害に対するチーム医療としての各職種役割を理解する。	摂食嚥下障害と 医師 (摂食嚥下障害の診断と検査(成人・老人、小児)、チーム医療、誤嚥性肺炎、リスク管理、 栄養摂取の代替え法)、 吸引に関する知識等	1	7
	摂食嚥下障害と呼吸機能(COPD、挿痰等、PTの役割)	1			摂食嚥下障害と 看護師 (吸引に関する知識、 差別的影響 、ベッドサイドのスクリーニング、 食事介助技術)	1	
	摂食嚥下障害とST(OT協業とSTの摂食嚥下訓練の紹介)	1			摂食嚥下障害と 理学療法士 (呼吸機能について、COPD、挿痰等、PTの役割)	1	
	摂食嚥下障害と歯科(OT協業と口腔ケア)	1			摂食嚥下障害と 言語聴覚士 (STが行う摂食嚥下訓練の紹介、 OTとの連携)	1	
	摂食嚥下障害と 栄養士 (栄養管理、食物形態、調理方法、増粘剤)	1			摂食嚥下障害と 歯科 (口腔内の評価 、口腔ケア、 OTとの連携)	1	
					摂食嚥下障害と 管理栄養士 (栄養管理、食物形態、調理方法、増粘剤)	1	
		摂食嚥下障害と作業療法士	1				

摂食嚥下 専門作業療法士:専門基礎研修シラバス(続き)

現 行				変 更			
目的	研修項目	コマ数		目的	研修項目	コマ数	
専門基礎Ⅲ 摂食嚥下障害に対するOITの基本的役割と、各種疾患別のOITの基本的役割を理解する。	摂食嚥下障害に対するOITの役割(小児総論、在宅施設での役割(介護者の指導方法)を含む)	1	8	専門基礎Ⅲ 摂食嚥下障害に対するOITの基本的役割と、各種疾患別のOITの基本的役割を理解する。	中核・末梢神経疾患に伴う摂食嚥下障害(脳血管疾患・パーキンソン病・反回神経麻痺など)	1	8
	摂食嚥下障害に対するOITの役割(成人・高齢者総論、在宅施設での役割(介護者の指導方法)を含む)	1			変性・神経筋疾患に伴う摂食嚥下障害(パーキンソン病、ALS、MSなど)	1	
	中核・末梢神経疾患に伴う摂食嚥下障害(脳血管疾患・パーキンソン病・反回神経麻痺など)	1			老年期障害に伴う摂食嚥下障害(認知症、廃用症候群)	1	
	変性・神経筋疾患に伴う摂食嚥下障害(ALS、MSなど)	1			内科・整形外科疾患に伴う摂食嚥下障害(脊髄障害、悪性腫瘍、COPDなど)	1	
	老年期障害に伴う摂食嚥下障害(認知症、廃用症候群)	1			精神科病種における摂食嚥下障害(統合失調症、重度認知症、躁鬱、廃用症候群など)	1	
	内科・整形外科疾患に伴う摂食嚥下障害(脊髄障害、悪性腫瘍、COPDなど)	1			発達期の摂食嚥下障害(肢体不自由・重複障害等)	1	
	発達期の摂食嚥下障害(肢体不自由・重複障害等)	1			発達期の摂食嚥下障害(発達障害・知的障害等)	1	
	発達期の摂食嚥下障害(発達障害・知的障害等)	1			摂食嚥下障害に対する在宅での支援	1	
専門基礎Ⅳ 摂食嚥下障害に対する基本的な評価から治療までの一連のプロセスと、さらにOITに不可欠な評価と治療について理解する。	摂食嚥下障害に対する評価(小児)	2	8	専門基礎Ⅳ 摂食嚥下障害に対する基本的な評価から治療までの一連のプロセスと、さらにOITに不可欠な評価と治療について理解する。	摂食嚥下障害に対する評価(小児)	2	8
	摂食嚥下障害に対する評価(成人・高齢者)	2			摂食嚥下障害に対する評価(成人・高齢者)	2	
	摂食嚥下障害に対する治療(小児:治療計画を含めて機能訓練と摂食訓練のポイントを説明、福祉用具や補助具の適応と選択、食事介助指導も含む)	2			摂食嚥下障害に対する治療(小児:治療計画を含めて機能訓練と摂食訓練のポイントを説明、福祉用具や補助具の適応と選択、食事介助指導も含む)	2	
	摂食嚥下障害に対する治療(成人・高齢者:治療計画を含めて機能訓練と摂食訓練のポイントを説明、福祉用具や補助具の適応と選択、食事介助指導も含む)	2			摂食嚥下障害に対する治療(成人・高齢者:治療計画を含めて機能訓練と摂食訓練のポイントを説明、福祉用具や補助具の適応と選択、食事介助指導も含む)	2	